

---

# **あなたへ～12・1・45・1・12～**

赤田サチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あなたへ～12・1・45・1・12～

### 【NNコード】

N9980C

### 【作者名】

赤田サチ

### 【あらすじ】

各話、異なった人物の一人称です。ある人物に対する思いを語つてくれちゃっています。タイトルにある数字は一応暗号です。くだらないですが……。

工藤君……、あなたと出逢つて、どのくらい経つのかしら。本当に助けられているわ、彼には。行動で、言葉で、心で。工藤君にはこんな事直接言えないけれど、感謝しているのよ。

正義の塊のような工藤君と、それと正反対の私。“死”的空間にいる私に、彼は知らず知らずのうちに手を差しのべて、私を“生”の空間へと導いてくれる。

……そうね、工藤君は本当に太陽のようだわ。知ってるでしょ？

「太陽と北風」の話。旅人のコートを脱がそうと、どんなに北風が頑張つても、旅人は脱ぐどころかコートを決して脱ぐまいとさらに押さえる。対して太陽は、その暖かさでいとも簡単に旅人のコートを気持ちよく脱がせる。人もこれと同じね。冷たい心で人の心を無理矢理こじ開けようとしても、その人は余計に心を閉ざす。温かい心で接すれば、人は自然と心を開く。……私も同じ。彼は太陽で、私は旅人。まんまとコートを脱がされているわ……。シェリーとう名の黒いコートをね。

そんな工藤君と出逢えたことは、偶然だったのかしら……それとも必然だったのかしら。彼は、私となんか関わりたくなかつたかもしれないけれど……。例え彼が迷惑だと思おうが、こつちは有り難く思つているのよ。

今、この黄色いビートルから見える景色の一コマ一コマが、次々と私の横を去つてゆくように、私に許されている時間ときも次々と過ぎ去つてゆく。その中で、工藤君に出逢えたということが大切なのであつて、それが偶然か必然かなんてこと、愚問だわ。こんなの何の問題にもならないわね。

ほら、この世には“逃げるが勝ち”なんて言葉あるけれど、私はこの言葉どうかと思うわ。……いいえ、工藤君や工藤君の周りの人に出逢つて何か気付かされるまでは、私はこの言葉を象徴するような人間だつた。こう考えると、私も少しは成長したのかしら？ なんてね。あなたの頭の中には、“逃げるが勝ち”なんて言葉、ないのかもしないわね。

……私はもう逃げないわ。工藤君、あなたの言つ“運命”から。

『逃げてばっかじゃ勝てないもん』

これを言つた本人より十年以上も生きている私が教えられたわ。  
：  
…私の周りは、本当に興味深い人達ばかりね。

外の暗さがさつきよりも増してゐる。もうすぐ夕飯の時間だわ。工

藤君は大切な恋人さんにおいしいご飯を作つてもうつかしら？  
私もこのお腹をすかせた博士さんに、とつておきの料理を作つてあげなくちゃね。そう、彼にピッタリの。彼はありがた迷惑つて感じみたいだけじね。……さあ、この車から降りたら、早速取りかかりましょうか。

ねえ、私もつ一度きちんと約束するわ。

自分の運命から逃げない……と。

## FILE01・シルバーのパート（後書き）

哀の一人称でした。

……ねえ、僕はあの子を見ているといつも思うんだよ。本当に不思議な子だなあって。名前もそうだけれど、警察である僕たちを凌ぐ推理力を持つ小学生。なんでも知っている、知識豊富な小学生。不思議で堪らない。何だか頼りがいがあるんだよなあ、コナン君は。

……って大人の僕がこんなことを言つていいちゃいけないのだけれど。

そして、未だに佐藤さんの前でドギマギしているような僕なんかより、いつも堂々としていて余裕たっぷりなコナン君のほうが遙かに大人なような気がして。……いや、コナン君も大きくなつて恋をすれば平常心でいられなくなる日が来るのかな。こう考えていると、僕はコナン君に嫉妬しているのかな。自分よりも大人のような小学生に。もしコナン君が、今僕と同じくらいの歳だとしたら……

その君のことを見つけていたとしたら……

僕に勝ち田はないような気がする。こんなありもしないことを考えて、一人で落ち込んでも馬鹿馬鹿しいんだけれどね。

今、佐藤さんが僕の隣で僕の方を見て微笑んでいる。僕が今、小学生に対して嫉妬心を燃やしていたなんて夢にも思わないだろうな。もしそれを知つたら佐藤さん……あなたはどう思うでしょうか。呆れる？ 不思議がる？ それとも納得してくれるでしょうか？

今僕の目に映っているこの建物を見ると思い出すあの事件。この広いようで狭いような都会に、犇めき合つように聳え立つ無数のビルの中、一際目立つこの街のシンボル。真っ赤になつて自分を主張する“東都タワー”。

ここであつた爆弾事件でも、どこまでも冷静だつたコナン君。危険な爆弾を解除し、暗号を解いて大勢の人の命を守つた彼の姿は、とてつもなくカッコ良かつた。僕がこうして生きていらることは、今でも奇跡だと思つているんだ。あの時、助かる命は、僕等か学校にいる彼等のどちらか一方だけだと思つていたからね。その考えを、小学生のコナン君が覆した。

……不自然だと思った。だから思わずコナン君に聞いてしまつたんだよ。

『君はいつたい何者なんだい？』

あの事件で初めて思ったことじやない、前々からずっと疑問に思つていたことだつた。コナン君が何で返してくれるか、ドキドキしていた。

『知りたいのなら教えてあげるよ……あの世でね』

これがコナン君、彼から返ってきた言葉。

……「コナン君には、秘密を教えて死ぬ気など、更々無かつたんだろうね。死なない自信があったからこそ、その大切な秘密を教えてくれなかつたんだろう?

僕は、コナン君がただの小学生とは思えない。

……僕にもう一度、質問するチャンスをくれないかい?

……今度はあんなに追い詰めてられた時間じゃない、ゆっくりと流れる時間の中。

僕は知りたいんだ……。

君はいつたい何者なんだい？

だから教えてくれないか……。



## FH-LEO2...やがても知りたい（後書き）

高木刑事。

テスト直前です。ヤバいです。第二話は、この恐怖の行事が終わり次第頑張りたいと思います。

## FH-LEO-03・私のイーハリ（前書き）

テスト終了です。ハア (\*'、' ) =

十一月四日、少し修正しました。あまり修正されていないかもですが……。修正前よりも子どもっぽくなっている……といいです。（願望）

## FILE03・私のイノリ

「コナンくん、あなたがね、転校してきたとき、わたし思つたんだ。

“この人がわたしの運命の人だ”つて。……なんでつて？ そんなのわたしにもわからないけれど、でもそんなふうに思つたんだよ。……ほら、よく言うでしょ？ 女のカンつてヤツ。……こんなかつこいい人が運命の人ならいいなつなんておねがいもあつたけど。

コナンくんは見ためどおり、スポーツもできて、頭もよかつた。

それだけじゃ、そういう男の子はいっぱいいるけれど、わたしがコナンくんと時間をいっぱいすこすこようになつて、この人はほかの男の子とは何かちがうつて思つたんだ。

……スポーツがてきて、頭もよくて、たよりがいがあつて、やさしくつて、大人っぽくて。泣き虫なわたしを守つてくれる。どんなときだつて守つてくれるんだ。

でもね、ときどき「コナンくんをすぐ遠くに感じるんだ。なんだかすごく遠くにいる人のようなかんじがしちやう。哀ちゃんとコナンくんが一緒にいて一人で何か話しているときとか、わたしには分からぬむづかしいこと話している気がする。ほら今も。わたしの後ろで話す一人からは何かちがうかんじがするんだもの。

それに、わたしと哀ちゃんに話すときの「コナンくんのかんじがちが

う。これははつきり分かるもん。

あなたにとつて、わたしは妹みたいなふうにしか思えないのかな？  
テレビで見る恋人とかとはちがう。わたしは妹でしかないの？

どうして？ どうして？

わたしがまだ赤ちゃんみたいだから？ もっとお姉さんにならなき  
やいけないのかな？ コナンくんはもつと大人っぽい女の人が好き  
なのかな？ 蘭お姉さんも年上の女の人だし、そういうえば哀ちゃん  
も大人っぽいもんね。

わたしは妹じゃイヤだ。哀ちゃんよりも、蘭お姉さんよりも大人  
っぽくなれるようにならんばかり。守られてばっかりじゃ大人には  
なれないから、だからコナンくんもたよつてくれるような大人の女  
の人になるから。

……わたしだけを見てよ。

わたしはぜいたくかもしれないな。コナンくんはいつだってわたし  
を守ってくれるのに。まだこうやつてわがままを言っちゃうんだも

ん。

……がまんします。これが叶うならどんなことだってがまんする。  
お母さんに洋服買ってとか、おもちゃ買ってとか、お父さんにここ  
連れてってとか言わない。約束します。

だからかみさま、おねがいします。

あの人があたしのことだけを見てくれますよ!!。

あの人気が好きな女の子になれますように。

運命の人があの人がありますように。

おねがいが叶うように、カンガ外れないように、わたしはイノリます。

## FH-LEO-03・私のイーハリ（後書き）

歩美ちゃんでした。これ一番ダメな気がします……。『めんなさい、本当に……。歩美ちゃんを書くにあたって、いろいろと不都合な点が沢山……。こんななんでも読んで下さり本当に有難う御座いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9980c/>

---

あなたへ～12・1・45・1・12～

2010年10月28日03時19分発行